

輸送機・建機



日高 直輝

輸送機・建機
事業部門長

主要分野

- 船舶・航空宇宙・車輛
- 自動車
- 建設機械

組織名

- 輸送機・建機総括部
- 船舶・航空宇宙・車輛事業本部
- 自動車事業第一本部
- 自動車事業第二本部
- 建設機械事業本部

事業部門長メッセージ

目指す姿

取り巻く環境の変化を先取りし、事業領域を柔軟に変化・拡大させながら持続的に成長することを目指します。

目指す姿を実現する成長戦略

既存事業の収益性を徹底して向上させるとともに、周辺ビジネスを取り込むことで、収益の柱をさらに太くします。また、既存の領域にとらわれず、将来の収益源となる可能性のある新規ビジネスに積極的に取り組みます。同時に、市況・経済動向、将来性等を冷静に見極め、メリハリの効いた経営資源の配分を行うとともに、必要となる人材を育成していきます。

Q BBBO2014について総括してください。

A グローバルな事業展開で収益基盤拡大への取り組みを進めました。

船舶・航空宇宙・車輛分野では、船舶事業が市況低迷の影響を受け一方、航空機リースなどの既存事業が堅調に推移しました。自動車分野においては、メキシコ完成車製造事業などの新しい収益の柱を成長させながら、リース、金融、流通販売等の既存事業の維持・拡大に注力しました。建設機械分野では、北米での販売・レンタル事業を着実に成長させながら、サウジアラビアでの新たな事業展開など、新興国の需要拡大に対応した取り組みを進めました。

また、アジアでのリテール領域ビジネス拡大を図るべく、インドネシアの商業銀行へ投資をしました。



メキシコにおけるマツダ(株)との完成車製造事業

【2014年度の実績】

当期利益は、メキシコ自動車製造事業の本格稼働が開始したほか、リース事業や建機レンタル事業が堅調に推移しましたが、機構改正により当事業部門に移管したタイヤ事業の米国TBC Corporationの減損損失を含めると、前年度比70億円減益の406億円となりました。

業績ハイライト

(億円)

	2013年度	2014年度	2015年度予想
売上総利益	1,715	1,836	1,920
営業活動に係る利益	340	184	—
持分法による投資利益	275	317	—
当期利益(親会社の所有者に帰属)	476	406	500
基礎収益	475	514	—
資産合計	15,701	17,564	—

※ 2015年4月1日付の機構改正に伴い、過年度の実績を組み替えて表示しています。

Q BBBO2017での施策について教えてください。

A 戦略的な資金の投入・回収や資産入替を通じて既存ビジネスの拡大を図るとともに、外部環境の変化に応じた取り組みを進めます。

急成長を遂げる新興国での人口増、生活レベルの向上等により、自動車をはじめとした輸送機需要の増加が着実に見込まれるほか、建機においてもインフラ整備に対する需要が高まっており、販売・レンタル事業の拡大が見込まれます。また、新興国を中心に航空機リースや鉄道整備の需要も拡大しています。

船舶事業では、将来の市況回復を睨み、自社船・共有船等の資産入替や、ポートフォリオの多様化を進めます。航空機関連では、既存の航空機及びエンジンリース事業において、資産積み増しによる収益拡大を進めるとともに、部品関連のサービス提供や製造事業参入など新しい分野への取り組みを進めます。また、鉄道関連事業においては、既存EPC案件を着実に遂行しながら、高速鉄道案件を含め新興国等でのビジネス拡大を図ります。自動車事業では、新興国を中心とした販売流通事業の拡大、部品・完成車製造事業の拡大、及び海外での金融事業の多角化を進めます。また、北米タイヤ事業では、再建計画を着実に実行します。建設機械事業では、プロダクトサポートの強化を通じて既存販売事業の収益性をさらに向上させるとともに、レンタル事業のさらなる拡大に取り組みます。

Q 事業活動を通じたCSRの取り組みを聞かせてください。

A インドでの農業機械販売事業を通じて、農業の生産性向上、食糧生産基盤の強化、農業従事者の生活の質の向上に貢献しています。

世界第2位の農業人口を抱えるインドにて、2008年に(株)クボタと共同で農業機械の販売会社を設立し、現地のニーズに合わせた質の高い農機を販売しています。この事業は、クボタの高度な技術・ノウハウと当社の豊富な海外販売事業経験との融合により、機械化の遅れによる低い農業生産性、工業化・都市化に伴う農村部での人手不足、経済成長・人口増加に伴う食糧需要増大などの問題解決のみならず、農業従事者の生活の質の向上にも貢献すると考えています。今後もタンザニアやミャンマーなど新興国・途上国の農業の発展に貢献していきます。



農業機械の販売のみならず稲作指導も実施

輸送機・建機

主要分野の概況

船舶・航空宇宙・車輛分野

目指す姿

各事業の強みを活かし、利益規模を狙うファイナンス・アセットビジネスと商社特有のトレード・サービスを両輪にバランスの取れた成長を目指します。

事業環境

新興国での航空機需要の伸びやタイムリーな機材調達を志向する航空会社の事情を背景に航空機リースは堅調です。一方、海運市況は低迷していますが、目下市況の動向を注視しています。アジアでは鉄道整備計画が数多く出てきており、事業機会が広がります。

強みと戦略

航空分野では、SMBC Aviation Capital Limited (SMBC AC) の航空機リース事業を一層拡大させるとともに、エンジンリース等の周辺事業を推し進めます。船舶事業はトレードで培った顧客基盤と持分法適用会社の(株)大島造船所が持つ造船業の知見を活かしてビジネスを展開します。交通・輸送インフラでは、実績に裏打ちされた鉄道EPC案件の確実な受注を図ります。

足元の取り組み

SMBC ACは、将来のリース需要の伸びを見据えてAirbus S.A.S (エアバス)とThe Boeing Company (ボーイング)に合計195機の飛行機を発注し、リース資産を積み増しました。鉄道ビジネスでは日本車輛製造(株)とともに、インドネシアのPT MRT Jakartaから同国初の地下鉄となる「ジャカルタ都市高速鉄道(MRT)南北線」向けの地下鉄車両96両を受注、約20年ぶりの同国向け日本製新造車両の納入が実現します。



ジャカルタ都市高速鉄道(MRT)南北線イメージ図

自動車分野

目指す姿

製造・販売流通・金融機能を深掘りし、収益基盤の拡充を目指します。

事業環境

一部新興国でのモータリゼーション進展による、部品・完成車製造、販売流通及び金融事業の拡大が見込まれます。先進国では環境問題対応のため、代替燃料、軽量化等の新技術を基盤とする新たな事業機会拡大が予想されます。

強みと戦略

グローバルな自動車関連企業との関係と、幅広い分野での知識と事業推進力を武器に、収益基盤の拡大を図ります。金融サービス事業では、アジアを中心に四輪・二輪ファイナンス事業の拡充を図るとともに、国内外でのオートリース事業のさらなる拡大を進めます。製造事業では、新興国を中心とした部品・完成車製造の拡大を図ります。販売流通事業では、自動車及びタイヤ関連での既存事業の拡大を図るとともに、新しい市場に挑戦し続けます。

足元の取り組み

住友三井オートサービス(株)と共同で、インドで自動車関連サービス事業を展開するCarzonrent Private Limitedのオートリース事業を買収しました。同国のオートリース市場の規模は約4万台と言われていますが、今後法人からの需要拡大などが見込まれ、数年後には10万台に達すると予想されています。経済成長が見込まれるインド市場に早期参入し、オートリース事業のさらなる拡大を図ります。



モータリゼーションが急速に進展するインド

建設機械分野

目指す姿

事業の持続的成長モデルを確立しつつ、取引先にとって欠かせない存在となることを目指します。

事業環境

米国では景気回復で引き続き建設投資が見込まれるとともに、「持つ」より「借りる」風潮が高まる建機レンタル事業の持続的な成長が期待できます。新興国では、インフラ整備の拡大に伴う需要の拡大が見込まれます。

強みと戦略

レンタル事業では、米国にて資本参加した建機レンタル会社 Sunstate Equipment Co., LLC (Sunstate Equipment) の市場シェア拡大を目指し、拡大戦略を実行します。販売・サービス事業では、世界に広がる事業基盤と、これまでに培った代理店事業のノウハウを活かし、中東・アジア・中南米・アフリカ等の新興国地域で新規代理店事業の立ち上げに挑戦します。

足元の取り組み

北米・欧州・中国・CIS・サウジアラビア・日本において顧客の多様なニーズに応えるため、一般建機及び鉱山用大型建機などの販売・サービス、レンタル、中古販売などの事業を展開しています。中でも、世界最大の建機レンタル市場である米国では、2008年の Sunstate Equipment への出資を契機に、着実に事業収益の拡大を進めています。また、アジア・中東・アフリカ等の新興国向けトレード事業にも取り組んでいます。



納入先に搬送されるSunstate Equipmentのレンタル建機

プロジェクト紹介

拡大する航空機市場における 航空機及びエンジンリース事業



事業の中核を担う次世代最新鋭機

当社は、2012年に英国大手金融機関である The Royal Bank of Scotland Group plc 傘下の航空機リース事業を、(株)三井住友銀行及び三井住友ファイナンス&リース(株)と共同で買収し、既存の航空機ビジネスと融合させ、SMBC ACとして業務を行っています。SMBC ACは、現在業界第3位で、今後約20年の間に35,000機近い新造機需要が見込まれることから、2014年に仏エアバス、米ボーイングより次世代最新鋭機種種の購入契約を締結するなど、今後とも優良な航空機ポートフォリオを形成し、幅広く顧客のニーズに応えられる体制を整えていきます。

また、航空機エンジン分野では、2013年にドイツの製造・整備大手MTU Aero Engines AGと共同で、航空機エンジンリース・サービス事業を開始しました。航空業界では、スペアエンジンを長期間リース形式で導入する需要が拡大していることに加え、エンジンの整備期間中に短期間でリースするビジネスも増加、顧客のニーズに適したサービス提供を図っていきます。エンジンリース事業は2014年度末には100億円を超える資産規模に拡大しましたが、今後この資産規模を500億円規模に高め、エンジン分野での部品販売や整備等のサービス提供、シナジーの創出などを通じて、民間航空機バリューチェーンにおけるビジネスの拡大を図ります。